

News Letter

vol.34
2020. 2月号

毎月発行

今月のよっしー

先日講座関係者ほぼ全員が集まり、ふた晩に亘って今後の方針などについて協議しました。特に総合診療医をどのように育成していくのか、指導体制をどう充実させていくのか、宮崎県で必要とされる医師とはどのような医師なのかトコトン話をしました。

最も大事なことは若い研修医や医学生が自ら進んで選択したくなるような、後輩を誘いたくなるようなワクワクする教育プログラムを用意することだとの結論に至りました。全力で取り組みます。



教授 吉村 学

連載企画

臨床実習病院・診療所紹介 「若草病院」

若草病院 理事長 水野 謙太郎 先生

若草病院は、単科の精神科病院です。「一人ひとりの生活に最適な支援を提供」することを基本理念として、宮崎市を中心に精神科地域ケアを展開しています。病院本体は精神科救急病棟があり、重度の精神症状にも対応するための設備を有しており、地域ケアとしてはデイケアや訪問看護、居宅介護、就労支援の事業所も運営していますので、実習中にそれぞれの役割について体験や見学をすることができます。また、当院以外の地域ケアを担う事業所の見学の機会もあり、精神科地域ケアについての理解を深めることができますと思います。



精神科は、他の診療科に比較すると地域ケアの整備が出遅れたこともあり、国内には長期入院を余儀なくされている重度の精神疾患に悩む患者や家族が存在していますが、特に統合失調症の長期入院患者さんは、「治療抵抗性統合失調症」と定義できる患者さんが多数おられます。（定義については精神科の講義で習われると思いますが）治療抵抗性統合失調症にも効果が期待できる治療方法としては、薬物療法ではクロザピン、非薬物療法では電気けいれん療法があります。当院では、どちらも治療現場を見ることができますので、実習の際にはいろいろ質問してください。丁寧に説明したいと思っています。



総合診療 Tips — 総合診療にまつわる豆知識 —

第16回 「ケアのコーディネーション（協調性） Coordination of Care」

今回はプライマリ・ケアの理念の一つ、ケアのコーディネーション（協調性）について。日常的なあらゆる問題に対応するには、一人の医師で実践することには限界があり、領域別専門医との密接な関係や医療チームや地域の多職種との連携が求められます。地域の中のネットワークを広げて社会的医療資源の活用をするとともに、地域住民と協調して健康問題などに取り組んでいくことも含まれます。

多職種連携コンピテンシーモデルでは、「患者・利用者・家族・コミュニティ中心」というのが中心にあります。コーディネーション（協調性）を考える際には、常に心にとどめておきたい概念です。

多職種連携コンピテンシーモデル



「地域包括医療・ケア研修会」シンポジストとして発表しました。

1月17日（金）～18日（土）、東京都千代田区で令和元年度の地域包括医療・ケア研修会が開催されました。当講座からは梶田一旭助教がシンポジウムⅡ「総合診療専門医の活躍と期待」のシンポジストとして登壇しました。総合診療専門医の専攻医として、総合診療専門医を専攻するに至った経緯や研修状況、総合診療専門医のあるべき姿、展望等を発表しました。参加された先生方から「素晴らしい発表でした」と絶賛されていました。



長崎大学医学部宮崎県卒学生との意見交換会に参加しました。

1月25日（土）、長崎大学において長崎大学医学部医学科の宮崎県卒学生との意見交換会が宮崎県主催で開催されました。医学生8名の他、長崎大学の指導医、当講座からは吉村教授が参加しました。16時からの約2時間、県からはキャリア形成プログラムの説明などがあり、吉村教授からは当講座の近況等の説明をしました。

長崎大学在学期間中では宮崎県や県内医療機関との関わりは毎年夏休みに開催されている地域医療ガイダンスに限定されていますが、この件についても活発な意見交換が行われました。今後も更なる交流を推進していきたいと思います。

「みやざき総合診療ウィンターセミナー」を開催しました。

2月15日（土）、道の駅つの・一の宮交流館（児湯郡都農町）においてみやざき総合診療ウィンターセミナーを開催しました。テーマは「多職種による社会的処方場づくり」。冒頭、桐ヶ谷先生によるセミナーの趣旨説明のあと、2つの講演を行いました。

- ・講演①「大切なものを大切にする地域のチャレンジ～繋がるチカラで生きることを支え合う～」

講師：肝付町役場 福祉課 保健師 能勢 佳子氏

肝付町のスーパー保健師、能勢さんからは原点に立ち返るというある女性とのインタビューに始まり、肝付町での多様な取り組みについて講話いただきました。肝付町は行政主導ではなく、住民から上がった声を拾い、その困りごとを住民も一緒になって考える土壌ができていましたが、困りごとを拾っていく肝付町の職員のアンテナの高さ、フットワークの軽さに脱帽します。「生きたいところで生きたいを支える」のが社会的処方という能勢さんの言葉は多くの参加者の心に響いたようです。

- ・講演②「制度によらない地域包括ケアシステム実践事例～地域の集い場づくり・みま～もカフェの取り組み～」

講師：みま～も・かごしま 事務局長 水口 義夫氏&善ちゃん

みま～もカフェの運営に参加されている91歳の笑顔の素敵な善ちゃんと共にみま～も・かごしまの取り組み等を講話いただきました。年齢や障がいに関係なく役割を担える支援をされる仕組み、人と人との交流の大切さをまずお二人の関係からうかがい知ることができました。否定から入らず、どうやったらできるのかという可能性を考え、自分事としてできることからやっていくことの大切さを教えていただきました。講師の皆様を始め、セミナー・懇親会にご参加いただいた皆様、休日の雨の中にも関わらず都農町へお越しくくださりましてありがとうございました！



講座のイベント情報

●レジデント・デイ

2/28(金) 18:00～ 場所：日南・油津Yotten

●第5回地域包括ケア実習指導者講習会

3/28(土) 14:00～ 場所：宮崎大学医学部

※詳細はホームページやFacebookに順次アップします。

宮崎大学 医学部 地域医療・総合診療医学講座

〒889-1692 宮崎県宮崎市清武町木原5200 TEL:0985-85-9809 FAX:0985-85-9805

E-Mail : chiikiiryo@med.miyazaki-u.ac.jp URL <http://www.med.miyazaki-u.ac.jp/community-medicine/>

